

第3学年 道徳学習指導案

日時：平成17（2005）年9月26日（月）

第5校時 **12:55~13:40**

児童：倶知安小学校3年2組 27名

指導者：教諭 山下 秀一

1. 主題名 「公正・公平について」 2-（2）思いやり・親切、4-（1）約束、きまりの尊重
2. ねらい
 - ◎相手の立場を考慮して親切にする判断力を養う。
 - ◎話し合いを通して、よりよい判断・理由づけができるようにする。
3. 資料 「かんけり」（モラルジレンマ資料「ルールを変えろって」：植田和也氏）を改編

4. 本時について

（1）本時の主張

集団で生活するためにはルールが必要であり、それらを守らなければ全員が幸せにはなれない。子どもたちの世界にもこのことは例外ではなく、学校で、あるいは社会においてルールの中で生活が成り立っていると言える。しかしながら、子どもたちはまだまだ成長途上の段階で、つい自分の権利のみを主張したり、自分の都合のみで考えてしまい、ルールを守れずに人を傷つけてしまったり、あるいは自分自身の身を危険にさらしてしまったりすることも起こしてしまっている。

そんな子どもたちにとって『ルールとは何なのか？』をもう一度問い直し、『相手の立場に立って行動するとはどういうことなのか？』について考える場を設定することで、『立場や価値観のちがいを認め合う大切さ』に気付かせ、今後の生活場面に生かせるようにしていきたい。

このねらいを達成するために本時では以下のような研究の視点のもとに進めていきたい。

〈研究の視点1〉

◎モラルジレンマ資料の活用

●絵、ペープサートなどの活用（資料内容・場面を視覚にうったえる。）

●遊びの実体験を本時以前に組み入れる。（実感を伴う場面に）

〈研究の視点2〉

●資料を2段階に分けて提示。（考える時間の保障）

●ネームプレート、学習シートの活用で個々に考えを持たせてから討議を行う。（自己決定）【自己の確立】

●揺さぶり発問を事前に用意。（他の考え・価値観への気付き・共感）【共生・共創】

○座席を同じ立場同士に固めて討議の活性化を図る。

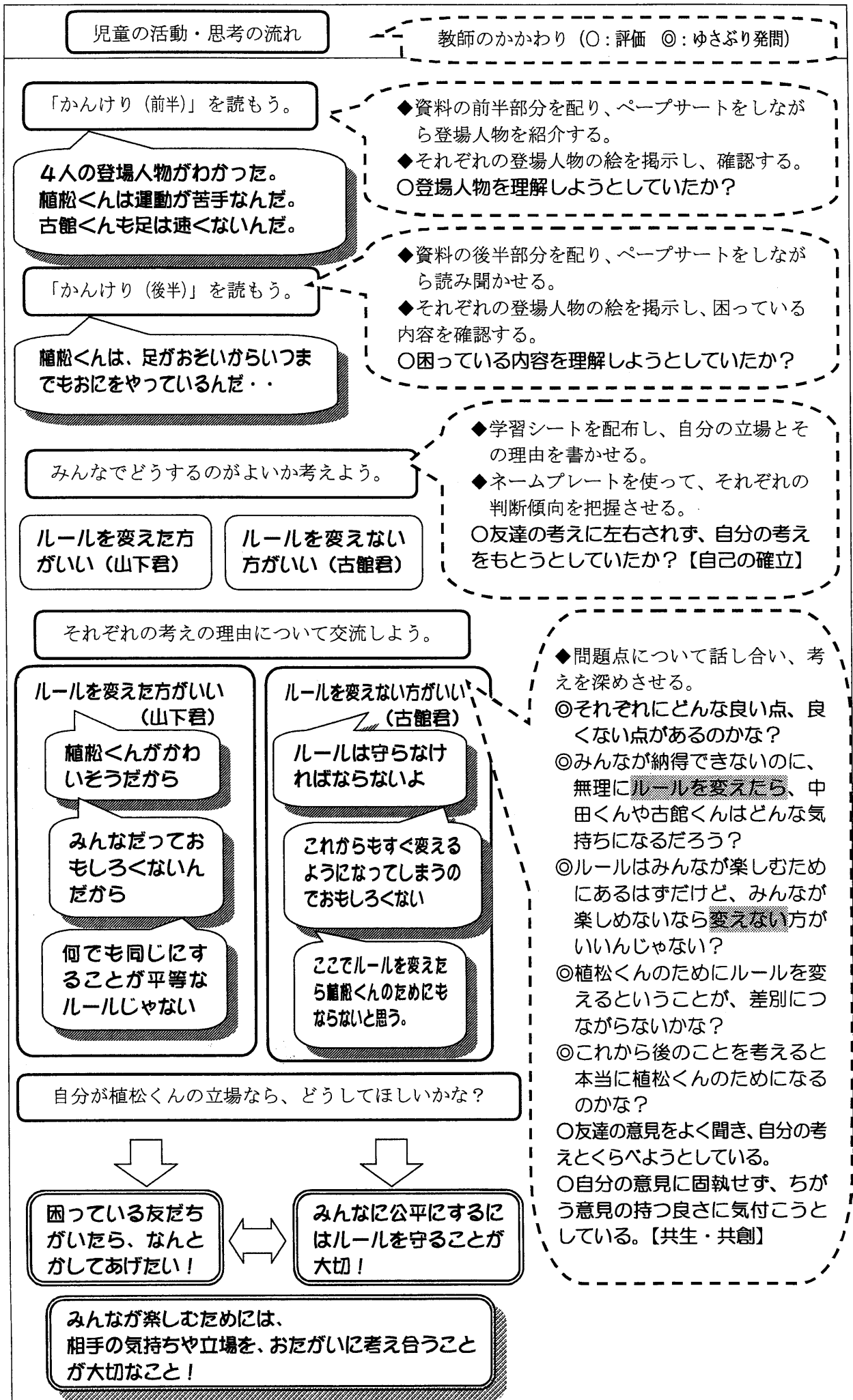
〈研究の視点3〉

●学習シートに自分の学びを振り返る（はじめと変わった考え・友達の意見ですばらしい所等）

（2）判断・理由づけの発達段階表

ルールを変えた方がいい	ルールを変えない方がいい
段階1	
●どうしたらよいかわからないから、人の言う通りにするのがいい。	●どうしたらよいかわからないから、人の言う通りにするのがいい。
段階2	
●植松くんがかわいそうだから、交代してあげるべき。 ●続けておこなっていると植松くんもみんなもおもしろくないのだから、ルールを変えて交代すべき	●みんな同じがいい。 ●ルールだからいい。 ●今までそうしてきたのだから変えるべきでない。植松くんだけ走るのが遅いわけではない。 ●少しのことで変えていたらきりがなくなるし、遊びが楽しくなくなる。
段階3	
●もし、自分が何回も続けてなると嫌な気持ちだし、この場合は何でも同じにするのが平等なルールじゃないと思うから。 ●ルールは守ることが大切だけど、みんなが納得すれば自分たちで新しいルールを作ってもいいはずだ。	●みんなが納得しないのなら変えるべきでないし、植松くんを励ましながらでもこのまま続けるべきだ。 ●植松くんだって自分だけルールが違うといつまでも自分に自信が持てないまま。 ●植松くんを差別しないためにも同じルールでした方がいい。

(3) 本時の展開



今日の学習を振り返ってみよう。

〇〇君の意見で自分の考えも変わるようになったよ。

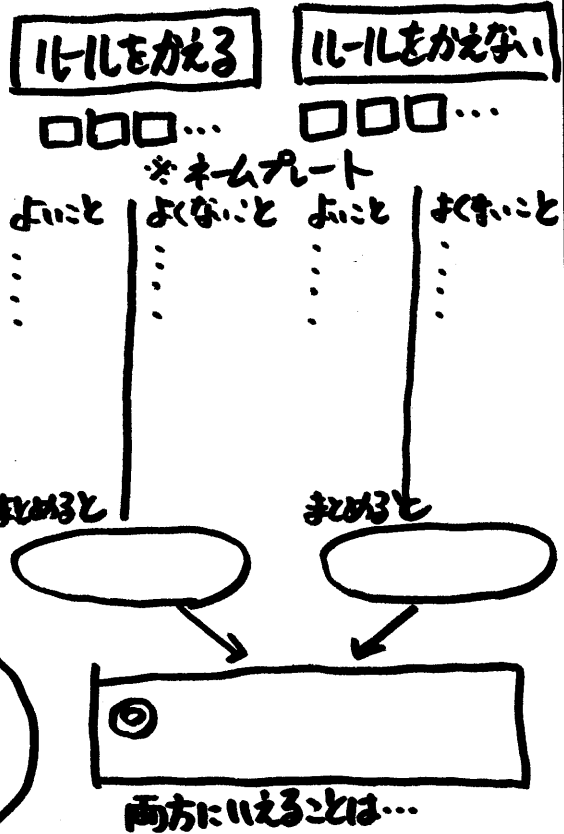
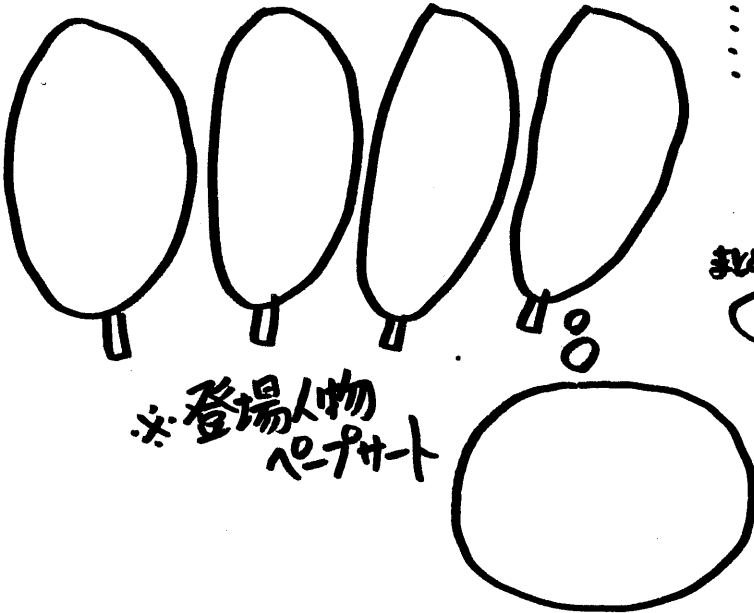
今度みんなで遊んでいて困ったことがあったら、みんなのことを考えるようにする

- ◆学習シートに、本時の学習の感想を記述させる。(はじめと考えが変わったことや難しかったこと、友達の意見の素晴らしいところなど)
- ・友達の意見の素晴らしかったところや自分の考えが変わったことなど今日の学習の感想を書いてみましょう。

(4) 板書計画

かんけり

みんなが楽しく遊ぶ
ためにはどうしたらよいか考えよう



3年生道徳「かんけり」学習シート

3年 組 名前

1. この場合、ルールをどうしたらよいでしょう？

どちらかに○をつけて、その理由も書きましょう。

() ルールを変えたほうがいい ※山下くんにさんせい！

() ルールを変えないほうがいい ※古館くんにさんせい！

りゆう

その理由

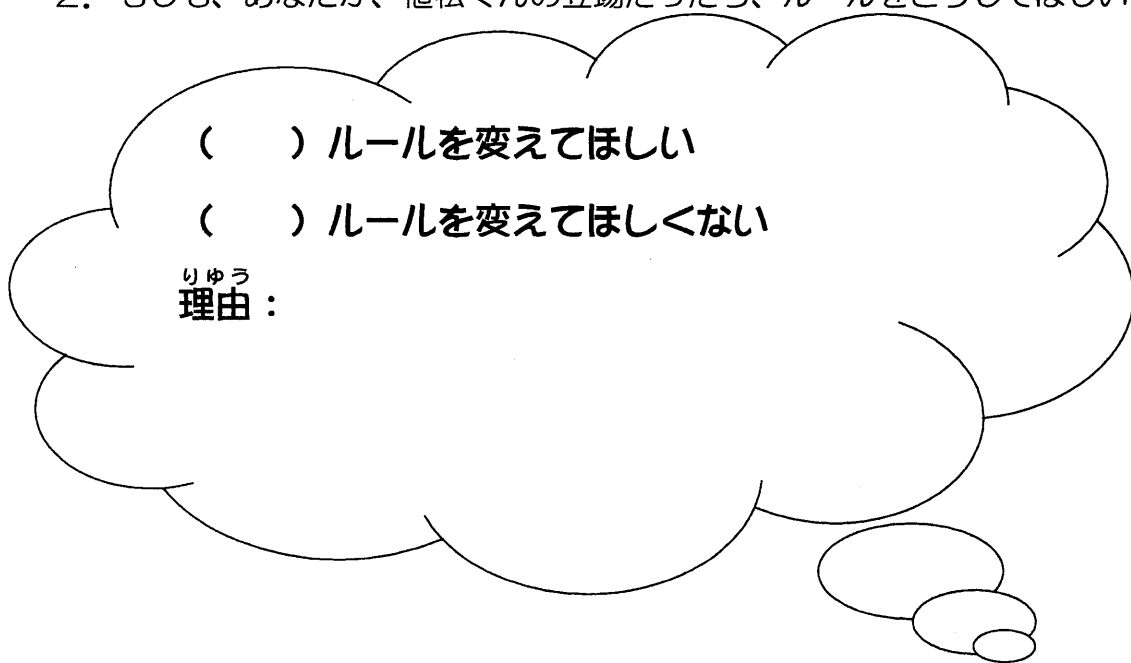
3年 組 名前

2. もしも、あなたが、植松くんの立場だったら、ルールをどうしてほしい？

() ルールを変えてほしい

() ルールを変えてほしくない

りゆう
理由：



「かんけり」

とうしょうじんぶつ
〈登場人物〉

●ぼく (山下くん) しゅじんこう 主人公

- ・かんけりがすき



●中田くん なかた

- ・ぼくの友だち
- ・いつも、ぼく (山下くん) とかんけりやおにごっこなどをして遊んでいる



●古館くん ふるだて

- ・ぼくの友だち
- ・走るのおそい
- ・いつも、ぼく (山下くん) と、かんけりやおにごっこなどをして遊んでいる



●植松くん うえまつ

- ・ぼくと大のながよし
- ・うんどう運動が苦手・走るのおそい
- ・ふだんは、かんけりやおにごっこなどをしていっしょにあそばないけど、今日は、やってみることにした。



ある日の中休みの時間、中にわで、4人でかんけりが始まりました。さいしょは古館くんがおにになりました。古館くんは、足がおそいので、5回けられたあと、やっと全員を見つけ、一番先にみつかった植松くんが、おにになりました。

植松くんは、おにになった最初は楽しそうだったのですが、5回続けてかんをけられてしまっただけからは、様子がおかしくなりました。走るのがとてもつらそうですし、だいいち、つまらなそうに見えました。

それで、ぼくは、

「おーい、タイム、タイム、みんなちょっと出てきてよ。」

と大きな声を出してみんなを集めました。かくれていた2人がびっくりした顔をして出てきました。ぼくは、みんながそろったところで、

「ねえ、みんな、植松くんがかわいそうだよ。そろそろ、こうたいしてあげようよ。」

と、みんなの顔を見ながら言いました。

すると、古館くんがおこったように言いました。

「ぼくだってあまり速くはないけど、がんばっておにをやったんだ。」

山下くんは植松くんと仲がいいから、そんなことを言うんだろう。ずるいよ！」

「だって、みんなだっておもしろくないだろう。」

植松くんだけルールを変えてもいいだろう。」

と、ぼくは言いかえしました。

ぼくと古館くんのやりとりを聞いていた中田くんもなっとくできないという様子で、

「植松くんがずっとおにだとつまらないよ。かくれがいがいいし、走りがないよ。」

スリルもないもん。やっぱり、植松くんは見学してたほうがよかったよ。」

と、ぼくに向かって言ってきました。すると古館くんが、

「山下くん。植松くんだけを特別あつかいにしてルールを変えるなら、ぼくはもう遊ばないよ。」

と、言ってきました。ぼくは、

「せっかく、植松くんに入ってもらってかんけりをはじめたのに、そんなことを言うなよ。」

みんながってだよ。楽しくやろうよ。」

と、言いましたが、どうしたらよいかこまってしまいました。

みんなもそれを聞いて、どうしたらいいか考えこんでしまいました。植松くんは下を向いたままで、何も言いません。ぼくもみんなが納得してくれないので、だんだん元気がなくなり、さびしい気持ちになりました。中にわの時計を見ると休み時間が半分くらい終わっていました。